

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第29回

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	池田サイト案と美山サイト案で、アバウトでも、どれぐらいの建設費がかかり、また、池田サイトあるいは美山サイトの場合のランニングコストというのか、維持費というのか、それはどちらがどれぐらい大きくなるのかということが一つ。	足羽川ダムを池田サイト案と美山サイト案に建設した場合の具体的なコストは?	2901
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	当初の美山の蔵作から池田の松ヶ谷までの間の水没について、220戸と言われていたものが、今回150戸の水没案に変更になっているのはなぜなのかを伺いたと思います。	美山サイト案の水没家屋数が以前の計画より減少したのはなぜか?	2902
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	今ちょっとコストの話で具体的な数字は言えない、わからないということなんだけれども、何でこちらの方が多くなるかを素人目にわかりやすさ、どの辺でどう値段の差が出てくるのかわかんないんですよ。何でこうなるのか、わかる範囲内で結構だから、教えていただけないでしょうか。	新旧ダム計画(案)の総合評価の表で、池田サイト案の方がコストが高くなっているのはなぜか?	2903
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	あれだけの豪雨を味わってみると、当初の案がよかったのではないかという声が純粋な気持ちとしてあったと思いますし、最初からあっちの方がいいからそうされたのではないかということで、今日は恐らく美山案の方が、ベストかどうかはわかりませんが、ベターだという答えが出るのかなと思いましたが、余り変わらないということについて、初めに池田案ありきではないかと、ちょっと意地悪ですけれども、そういうような御質問をしてみたいなと思ったことが一つ。 今、池田案と美山案が治水効果については同等の効果の有するという念押しをさせていただきたいと思います。	治水については、池田サイト案と美山サイト案とも同等の効果があるのか?	2904
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	穴あきダムが対象のような話もちょっとおっしゃっておられましたが、私は当初から、やはりダムというのは住民、あるいは今度、池田は別ですけれども、美山も含めまして福井市へ入ります。そういう中で、市民の憩いの場所として、あるいは数少ない観光資源としてダムが利用されてきている面がありますね。そういうことからしますと、比較検討のポイントが書いてありますが、そこの中には観光とか景観とかいうことが入っていない。素人考えではございますけれども、そういった点についてもあるんではなからうかと思えます。	治水専用ダムを対象に話が進んでいるが、ダム計画の比較検討には、観光・景観についても考えていく必要があるのではないかと?	2905
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	美山の人の気持ちはまだわかりませんね。つくるならもっとしっかりしたものをつくった方がいいというようなことが皆さんの意見の中でいろいろございましたね。それではというので、美山というのがまた浮上してきたんじゃないかと思うんですけども、どうせつくるなら立派なものをつくってくれという気持ちもわからないこともないですけども、どっちがいいか悪いかかとんとんであるんなら、余り水没家屋がない方がいいかと、私はそのように思っています。	ダムサイトは、治水機能が同じレベルなら水没家屋数が少ない方がいい。	2906
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	平成14年7月5日の発表によりまして足羽川の美山の案はもう白紙撤回をされたんですから、改めて今から始めようとするのは、また非常に問題が大きいと思えますし、ナンセンスに等しいと思えます。この2~3年のうちにまた第一歩から美山で始めるなんていうことをされること自体、私は不思議に思えてならない一人でございます。	平成14年7月に足羽川ダムの美山サイト案は白紙撤回したはずである。もし、今から改めて審議し始めるといふのであれば、それは非常にナンセンスである。	2907
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	トータルのコスト評価をされる際には、例えば、設備とか施設にかかる維持管理のコスト、あるいは導水を設けることによる管理上のコストとか、今回の場合は堆砂量にかなりの違いがあるということ、ダムの寿命の問題とか、そこら辺も含めた形で、池田案が美山案と比べてときに、例えばライフサイクルコスト、寿命で考えたときには維持管理としてはまあまあやっていますとか、あるいはどうなのかという、そこら辺もはつきり評価の中に入れていただければありがたいと思えます。	ダム事業のコスト評価をする場合は、建設コスト以外にも維持管理上のコストなどトータルコストを見据えて実施していくべき。	2908
第29回流域委員会				治水 (河川整備)	今さら比較して会議をしていたのでは、いつまでたっても審議が終わらないと思えますから、ここでひとつ締めくくっていただいて、この委員会としては、どういう方法であろうとも、穴あきダムにするか、または水ためダムにするかは別としても、部子川案で一本に絞って今後は審議をしていただきたい。いつまでも尾を引くような未練がましいことはやめていただきたいと強く要望いたします。	足羽川ダムの今後の審議については、池田サイト案に絞って早く結論がでるようにお願いしたい。	2909
第29回流域委員会				環境・利水 (利水)	いま日本の川に生息する外来種は、大体が瀬切れを起こすような川にはいないんですね。足羽川に外来種が入りにくい条件があるというのは、いくつもの瀬切れがあるということが大きな理由になっているはず。だから、瀬切れをなくして水が連なる場合には、そういう外来種が入ることを承知した上で、そういう外来種に対して対策を立ててやるかということがとても重要なことだと思っております。	瀬切れを起こすような川だからこそ、こういう生物がいると思う。もし、瀬切れを解消するのであれば、外来種に対する対策が必要となる。	2910
第29回流域委員会				環境・利水 (利水)	瀬切れがいつごろから常態化したかという歴史的なものだと思うんですね。逆に、やはりこういう堰ができてかなり高度に水が取れるようになり、管理ができるようになったということも一つ大きなことですし、水の需要が増えたということも大きなインパクトだと思います。	瀬切れが生物に与える影響を考慮していくには、足羽川の瀬切れがいつ頃から発生したかという歴史を探ることが重要である。	2911
第29回流域委員会				環境・利水 (利水)	多分、ここに出てきている種類を解析しますと、これは足羽川で瀬切れを挟んで上流と下流に今現在いるものの中で、重要種だと福井県が考えられている種類が出てはいますが、実は、そこにいなければならぬはずの種が抜けているんですね。川の中の生き物を、少なくともこないと重要だとは言いませんが、「これは種として重要だから」というような視点を当てての議論はよくありません。そこに生活している人のためには、そこに本来いるはずのものがどういう状態にいるかということが一番大事で、文化的な価値のある重要な種類がいるということとは少しかけはなれた議論になります。	川の中の生き物を考える場合、そこに本来いるものがどういう生態であるかを知ることが一番大事である。	2912
第29回流域委員会				環境・利水 (利水)	やっぱり日常的にアユ釣りをするのが足羽川の上流にかけての文化ですから、そういうところに視点を当てていただくと、瀬切れがない方が、水がいつでもあることがどれぐらい地元の人たちにとって幸せかという別な問題が出てきます。環境省が言っている重要種とそこに住んでいる人たちが求めている文化が違うということを少しお考えいただいて、普通の川が普通にあるのがどういう状態かということを理解していただくといいですね。	瀬切れがなく、川に水が流れていることが地元の人たちにとって幸せか等を考えることも重要である。	2913
第29回流域委員会				環境・利水 (利水)	この足羽川の貴重種と瀬切れの関係の表ですけれども、これは何年ごろのデータをもとにつくられた表なのかということを知っておきたかったです。	足羽川の貴重種と瀬切れの関係の図は、いつ頃のデータを基に作成したものか?	2914
第29回流域委員会				環境・利水 (利水)	正常流量が浅いまさらさら流れるということとはとても無理だと思うんです。湧き水を起こしてすると、どうしてもどこかに流れをつくらないといけないう思いますが、その流れを人工的につくった場合は、日本の川の魚は余り好きではありませんから、自分の体で移動が感じられるようなところは好きですけれども、改めて人間がつくったような水路状の川は外来種が入りやすい川になります。	瀬切れを解消するために、水が流れる人工的な水路をつくったとしても、そこは外来種が侵入しやすい川になってしまう。	2915

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第29回

発言状況等	内容区分			回答	分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案					
第29回流域委員会					環境・利水 (利水)	足羽川の堰堤が十郷の上にありますよね。それが原因で、その下で瀬切れが起きるわけです。もっと言うと、それが原因で起きているわけですね。その問題を少し解決するようにすることが一つ。	瀬切れは、足羽川堰堤の下流で発生しており、取水量を調整する等の改善を試みて欲しい。	2916
第29回流域委員会					環境・利水 (利水)	例えば、瀬切れが起きるような年にはお米の収穫が非常に減るのかどうか。また、例えば内水面漁業についても、瀬切れのときにもやはり非常に内水面漁業にシリアスに影響しているのかどうか。そういった中から、正常流量を、例えば在来種に持っていきのいいのかがどうかというふうなこと、川として精神的に憩いの持てるようなものとして、やはり川には水があった方がいいのかどうかというふうなこと、そういったようなことをある程度絞れるのであれば、絞って考えた方がいいのかなという感じがするんです。	正常流量を確保するか否かは、瀬切れの発生により、米の収穫量が減少するのか、または内水面漁業に影響するのかを調査し、それらの結果から絞り込んで判断していくべき。	2917
第29回流域委員会					環境・利水 (利水)	瀬切れの主な原因は、やはり灌漑用水にあるんだらうな。私も半分以上そっちの方が強いんじゃないかと思えます。そうすると、番水で一生懸命節水をしていただいていることはわかるんだけど、もうちょっとそれ以上に何かないのか、もっと何とか知恵を出していただけないのかと。	瀬切れの発生は、灌漑取水も原因の一つと考えられるので、農業関係者も知恵を出し合って解消に努めて欲しい。	2918
第29回流域委員会					環境・利水 (利水)	水位が下がってきたときに伏流して瀬切れが起こりやすいところは、自然の河川だったらどこでもあるんです。特に平野地を流れる沖積のところでしたら、蛇行しているところだったらどこでもあって、そういうところがいろんな日本の魚の稚魚が育成される場所になって、2cmとか3cmぐらいの水しか流れていないところで稚魚が育成されて、大きい雨が来たらそれが上下流に分配されるということを繰り返していますし、その2~3cmの水しかないような川の流がどこかにないと、その1本の川は生きていけないんですよ。	瀬切れは自然の河川では起こりうる現象であり、それを解消するということは、川本来の自然の営みを変えることになる。	2919
第29回流域委員会					環境・利水 (利水)	3大河川に関しては、ある程度統一のとれた見解で、日野川は正常流量が欲しいためにダムをつくって洪水時には放水する、足羽川はそれをしなくていいとかいう個々ばらばらでなくして、九頭竜川の電力もやはりある程度自粛してもらって放水しようという意見がこの流域委員会でも強かったんですし、余り足羽川一つにこだわらなくして、総合的に見た場合においてはバランスがとれるのではないかと思います。足羽川だけに絞って深く議論しても、それは足羽川だけの話で、県として考えた場合においては、そういう要望、またそういうことでもってダムをつくったほかの河川のことも考慮して原案提示をお願いしたいなと思えます。	正常流量については、足羽川だけ深く議論するのではなく、九頭竜川、日野川、足羽川の3流域で、ある程度統一のとれた考え方にしたい方がいいのではないかと。	2920
第29回流域委員会					環境・利水 (利水)	それぞれの地域に合った、そして環境をもうちょっときちっと視野に入れたものにしていかないと21世紀はもうやっていけないというところこの委員会がつくられて、いろんな方々の知恵を出し合っ、今までにない形を模索していかなければいけないんじゃないかという時代だと思うんです。やっぱり川というのが本当にどういふものなのかと、全国一律の同じような川であっていいのかわいのか、私はそれは余りよくないんじゃないかなと思うので、そういう視点でもってこれから論じていってほしいなという思いがします。	これからの川づくりは、画一的な考えによらず、それぞれの地域の個性・環境に合った川づくりをしていくべき。	2921
第29回流域委員会					環境・利水 (利水)	正常流量を確保するために、例えばダムの供給で100%やるとかいう形はどうかかなと。ですから、例えば今ここに四つ拳がっている中のどこに重みづけを持っていくのかということが非常に重要になると思うんです。ですから、あるところに特定のし寄せを持ってくるんじゃないで、やはり一番の水利権、それからダム供給のところまで、やはりお互いにダムへの負荷をできるだけ減らすような努力が必要だろうと思えます。そこら辺の姿勢をこの委員会の中でどういう方向で持っていくかということが重要じゃないのかなと思うんです。	正常流量を確保する場合、正常流量確保のための検討(案)の4つの項目の中で、どこに重点を置くかが重要であり、ダムへの負担を極力減らすように努力するべき。	2922
第29回流域委員会					環境・利水 (利水)	足羽川本川でどうだということだけではなくて、農業サイド、あるいは農業の水路の役割なんかもう少し表面に出していただいて、流域という概念です、1本の川の道筋だけではなくて、そのあたりも少しお調べいただいで教えていただきたいなと思えます。	魚類や外来種等の生物調査は、足羽川本川だけを対象とするのではなく、流域という視点から農業用水路等についても調査して欲しい。	2923
第29回流域委員会					治水 (河川整備)	上流からの土砂生産が、福井豪雨の後、やはり足羽川からの土砂量がこの10年ぐらいとこれから10年ぐらいでは違ってくのではないかとこのあたりについて、これで絶対に大丈夫だと言い切るのではなくて、まずは計画でこういう形で下げることが当然ある期間有効だということは事実だと思えますから、これが未来永劫大丈夫だということではなくて、下流の合流点での堆積状況であるとか、あるいは上流からの土砂生産の動向だとかを見た上で、いわゆる掘削したことの効果の追跡調査をやる必要があるということを現段階では申し上げておきたいと思えます。	足羽川の河床の安定性を評価するには、下流の合流点での堆積状況や、上流からの土砂生産の動向等を見た上で、掘削箇所を効果を追跡調査することが重要である。	2924
第29回流域委員会					治水 (河川整備)	上流の不安定土砂というのは、ここにたまる以前にもっと上流でたまりながら流れてくることになり、新たな土砂に由来する災害を防止するという観点でも、やはりある程度は止めていかないといいない。ですから、そのうちもっと細かいものが早い段階でここにたどり着いてたまる可能性がないとも限りませんから、ある程度上流で抑えていく。ただ、それで100%抑えられるということではないと思えますので、一旦掘削しても、それをほうっておくと、また局所的にたまるようなところがどうせ出てくると思えます。そこについては、やはり十分ケアしていくということで、いわゆる治水上の掘削したことの効果を維持することが大事ではないかと思えます。	新たな土砂災害を防止するには、足羽川上流の不安定土砂の流出を防止し、下流での掘削による効果を持続させることが重要である。	2925
第29回流域委員会					治水 (河川整備)	洪水対策でしたら、今、足羽川の幸橋のところからずっと約2m下げるといことで、日野川との合流地点に行くまでに、雨が降ったりしたら、水も早く流れていくわけですね。そうすると、日野川の方から、当然下の方から来るんだと思うんですけども、その辺も下げなければだめみたいな感じになるのでしょうか。そうすると、今度は先の方へ行くと、塩害というか、海から入ってくる方で逆流みたいなことになるのかなと。そういうことの影響も考慮されて約2m掘削という計画なんですか。	洪水対策で足羽川の河床を約2m掘削した場合、日野川との合流部に影響はないのか？	2926